

2013年11月7日

# 2014年3月期 第2四半期 (第41期) 決算IR説明会

**株式会社メイテック**

〒107-0052

東京都港区赤坂 8-5-26 赤坂DSビル

TEL 03-5413-2600 FAX 03-5413-2622

URL : <http://www.meitec.co.jp>

# I .連結業績の概況

## <業績【連結】：2014年3月期 第2四半期累計>

(単位:百万円)

			売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益
第2四半期 累計	連結	実績	35,754	2,907	2,931	1,706
		前期実績	34,130	2,891	2,945	1,692
		対前期比 増減率	4.8%	0.5%	△0.5%	0.8%
	単体	実績	28,150	2,392	2,791	1,745
		前期実績	27,125	2,460	2,739	1,593
		対前期比 増減率	3.8%	△2.8%	1.9%	9.6%

<参考/業績予想>

(単位:百万円)

			売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
2013年5月9日 期初予想	連結		35,500	2,600	2,600	1,500
	単体		28,000	2,200	2,600	1,650

2

連結業績の概況です。

売上高は前期比4.8%の増収で、357億5,400万円、利益はほぼ前年並みで営業利益は29億700万円、経常利益は29億3,100万円、四半期純利益は17億600万円となりました。単体も連結とほぼ同じ傾向です。売上高は前期比3.8%の増収で、281億5,000万円、営業利益は23億9,200万円、経常利益は27億9,100万円、四半期純利益は17億4,500万円となりました。

下段に記載の期初予想と比較をすると、連結、単体共に売上高は、ほぼ期初予想通りとなりました。利益が期初予想より若干上振れしていますが、これはメイテック単体の販管費(主に情報システム管理費用)の費消が約2億円、上半期から下半期にずれ込んでいることが主な要因です。したがって、売上、利益ともに実態ベースで見た場合には、連結、単体ともにほぼ期初予想どおりの業績となりました。

## ＜市況の概況：2014年3月期 第2四半期累計＞

1. **メイテックグループの主要顧客である製造業全体の状況**
  - ・ 主要顧客である大手製造業各社では、足元や目先の景況に左右されることなく、次代を見据えた技術開発投資を堅調に持続される企業が多く見られた。
  - ・ リーマンショック以降のコストを徹底的に抑制する動向は継続している。
2. **本業(技術者派遣事業)の概況**
  - ・ 顧客企業の多くが技術開発投資を持続されていることから、前期に引き続き、堅調に成約を進めることができた。  
**\*2013年4月入社エンジニア(MT:379名、MF167名)は、  
 ほぼ計画通り配属完了**
  - ・ 新卒採用(2014年4月入社)は、計画数値を達成できた。(P22に記載)
  - ・ 中途採用は、依然として採用環境が厳しい状況にあるものの、ほぼ計画通りに推移している。

3

上半期の市況の概況についてです。

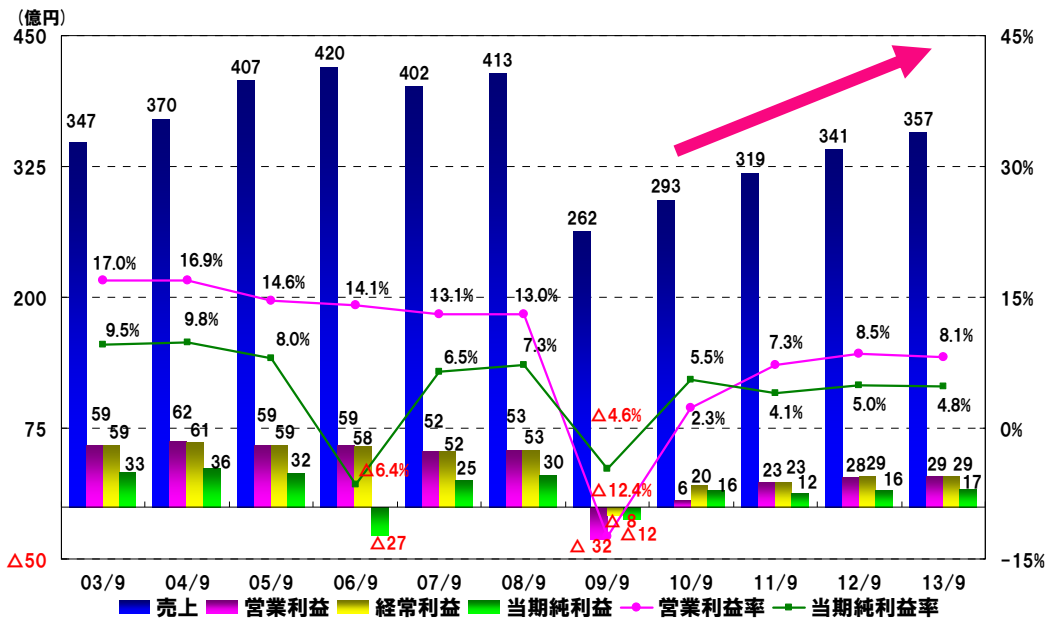
1つ目は、メイテックグループの主要顧客である製造業全体の状況についてです。記載内容は、5月の前期決算発表時と変更ありません。年初からのアベノミクス効果等により、円安による収益改善、株高による企業心理の好転はあるものの、景況に左右されず、技術開発投資を非常に堅調に進められるお客様が多く、現時点においては当社の受注環境等に特に大きな変化も無く堅調でした。ただし、分野によっては若干の濃淡もあり、詳細については、17ページのセグメント別売上高で説明をします。

2つ目は、技術者派遣事業の概況についてです。お客様である多くの大手製造業各社が、技術開発投資を持続されたことから、堅調に成約を進めることができました。

こうした状況の中、連結、単体共にほぼ期初予想を達成できた最大の要因は、2013年4月1日に入社した新卒のエンジニア(メイテック379名、メイテックフィルダース167名、合計546名)の配属も、ほぼ計画どおり、上半期中に完了することができました。

また、中途採用については、依然として採用環境は非常に厳しい状況が継続しているものの、上半期については、ほぼ計画どおりに推移しています。

## <業績推移【連結】：2014年3月期 第2四半期累計>

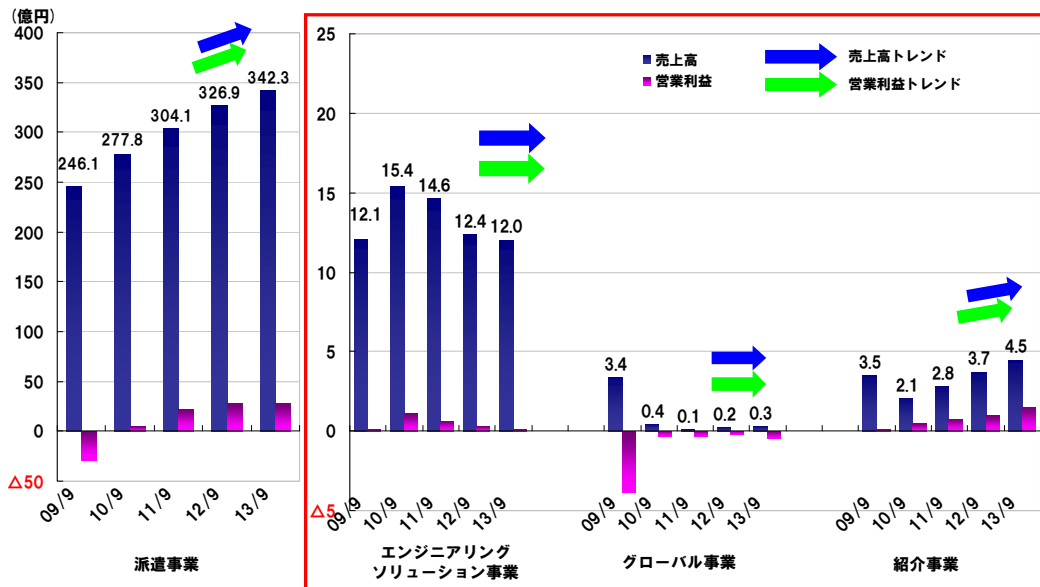


4

第2四半期ベースの連結業績推移です。

リーマンショック以降の回復基調が継続しています。

<メイテックグループの4事業：2014年3月期 第2四半期累計>



メイテックグループの4事業別の売上と営業利益推移になります。

業績トレンドは、前期から特に大きな変化は無く、連結売上高の約95%を占める派遣事業が引き続き順調に推移しています。技術サービスを提供するエンジニアリングソリューション事業およびグローバル事業として中国で行っているエンジニア紹介事業が、ほぼ横ばいとなっています。エンジニアに特化した紹介事業も増収・増益基調を継続しています。

## <グループ各社実績：2014年3月期 第2四半期累計>

(単位：百万円)

		売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
派遣事業	メイテック	28,150	2,392	2,791	1,745
	メイテックフィルダース	5,037	350	351	217
	メイテックキャスト	1,219	55	55	34
	メイテックEX	-	△ 17	△ 17	△ 17
E/S事業(※1)	メイテックCAE	506	43	43	27
	アポロ技研グループ	693	△ 27	△ 31	△ 21
グローバル事業	メイテック上海 他3社*	29	△ 43	△ 44	△ 44
紹介事業	メイテックネクスト	447	169	169	114
	all engineer.jp	4	△ 18	△ 19	△ 19
連結(※2)		35,754	2,907	2,931	1,706

※1 E/S事業：エンジニアリングソリューション事業

※2 連結消去調整後

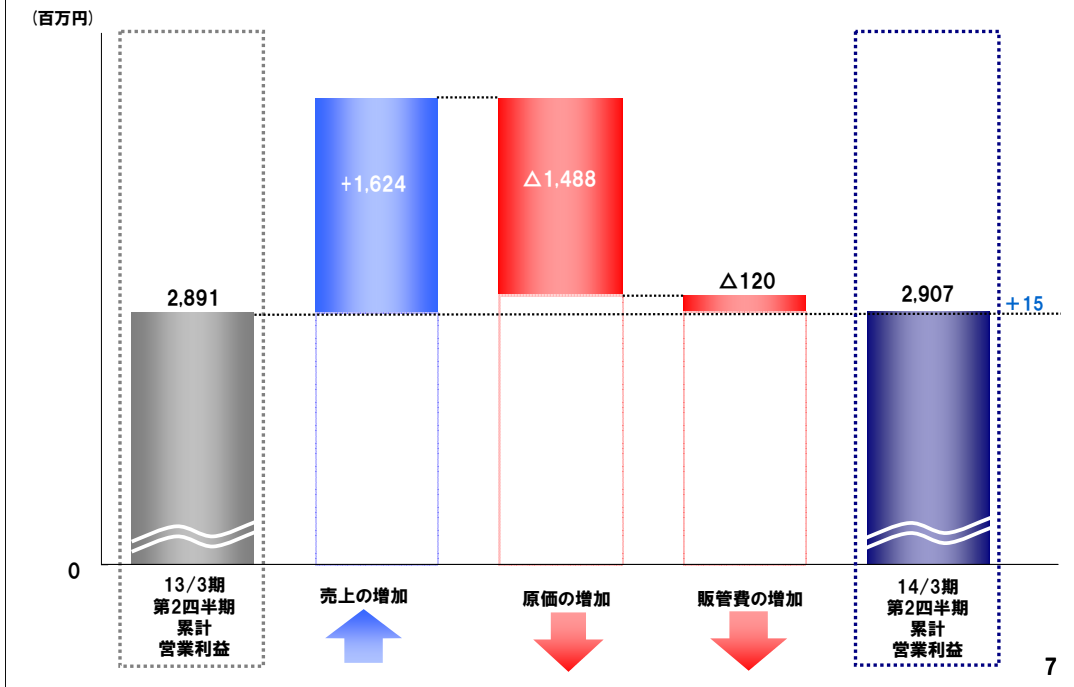
\*グローバル事業は、メイテック上海・メイテック西安・メイテック成都・メイテック上海人才の4社合計です。

6

上半期のグループ各社実績についてです。

主力の派遣事業に、新たに「メイテックEX」を立ち上げました。設立の背景は、今年、法改正された、高齢者雇用安定法に対応して、メイテックグループ社員の60歳以上の雇用の場を創り出していくこと、社外に向けて60歳以上のシニア労働市場をターゲットとした派遣事業を立ち上げていくことです。当面は、連結収益へはそれほど大きな影響は与えませんが、じっくりと大きく育てていくことに、取り組んでいきたいと考えています。

<営業損益前年同期比較【連結】：2014年3月期 第2四半期累計>



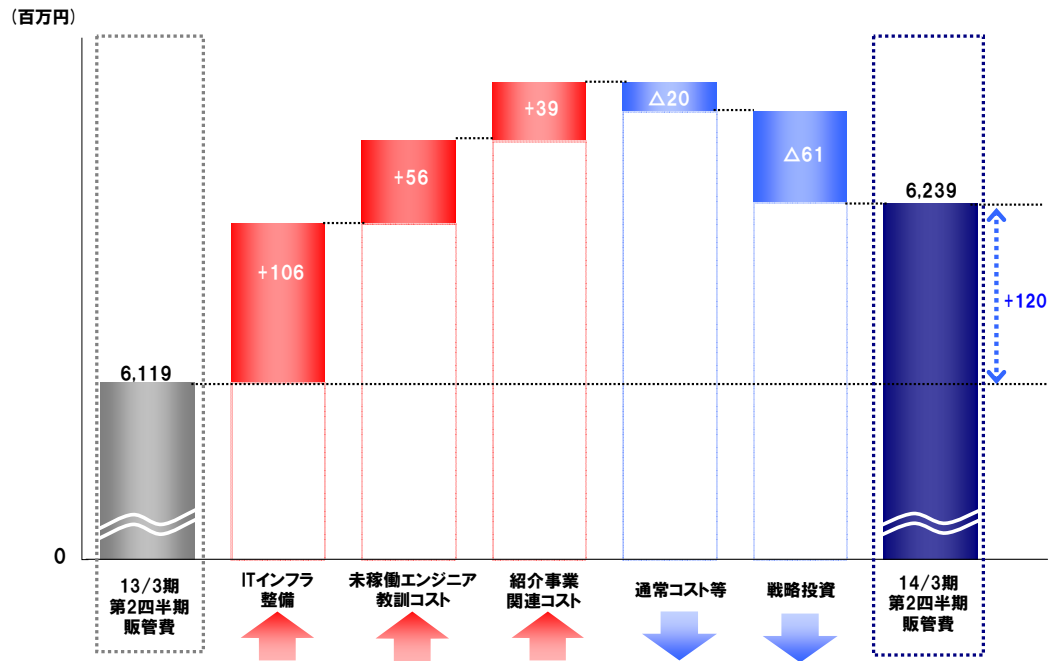
連結営業損益の前年同期比較です。

前期営業利益28億9,100万円に対し、今期は29億700万円で1,500万円の増益となっています。プラスの要因は売上の増加ですが、原価の増加もあるため、この2つがほぼ相殺している状況です。メイテック、メイテックフィルダーズのエンジニアを新卒採用で増員しているため、人件費が増加となり原価の増加に繋がっています。ただし、原価の増加要因である新卒エンジニアの配属を、ほぼ上半期中に完了したため、下半期は原価の伸びよりも売上の伸びが上回るため、通期では増益を見込んでいます。

販管費が1億2,000万円増加している内訳は、8ページに記載しています。



<販管費前年同期比較【連結】：2014年3月期 第2四半期累計>

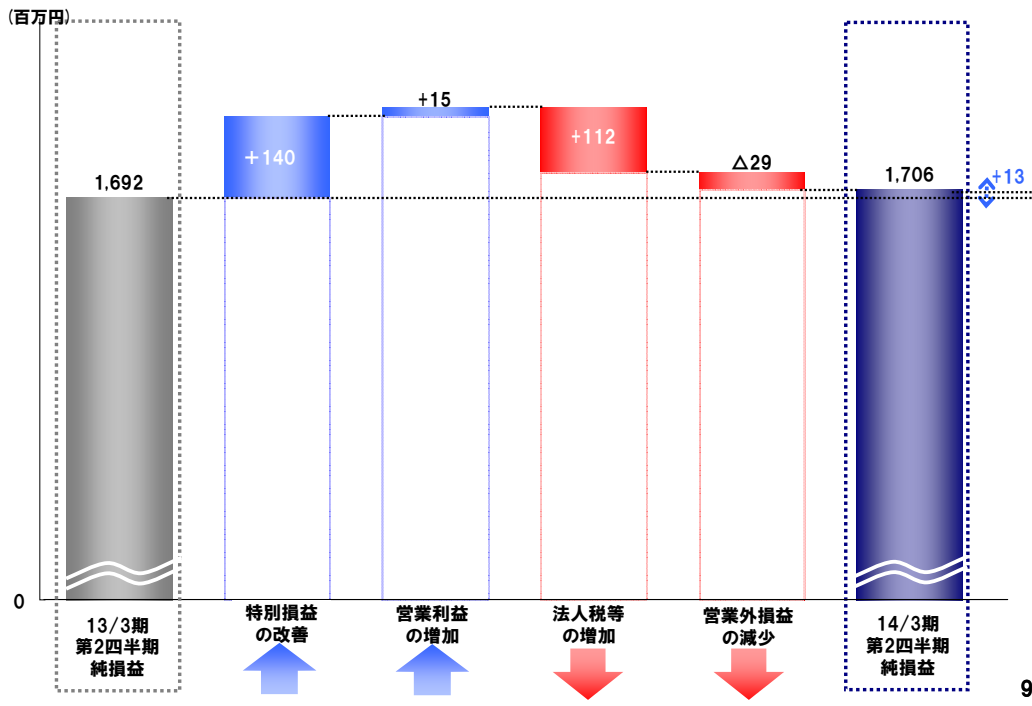


販管費が1億2,000万円増加している要因は、5つあります。

赤い部分はコスト増、青い部分はコスト減です。ITインフラ整備は、継続的に行っています。未稼働エンジニア教訓コストの増加は新卒エンジニアの教育訓練費用となります。紹介事業関連コストの増加については、メイテックネクストによるエンジニアに特化した職業紹介事業の増収に伴う費用となります。一方で、通常のオペレーションコストは若干抑制しています。

戦略投資の主要コストである採用コストについては、この上半期は若干コストを抑制し、より効率的な採用に取り組んできたということです。

<当期純損益前年同期比較【連結】：2014年3月期 第2四半期累計>

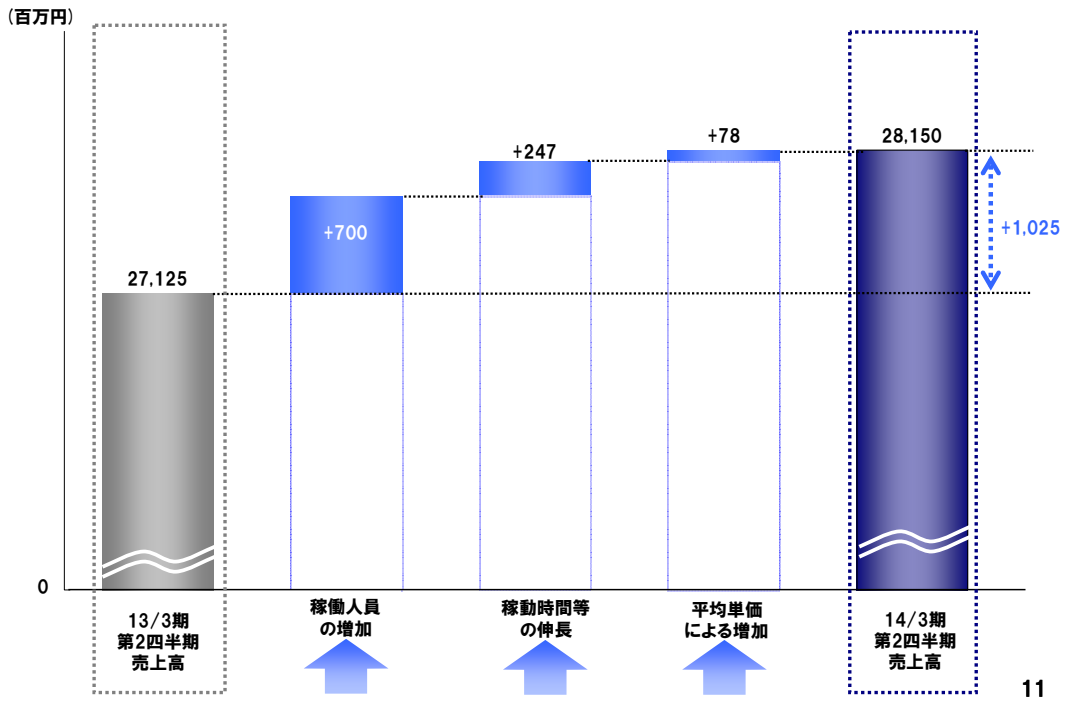


連結当期純利益の前年同期比較です。

連結営業利益がほぼ前年並みのため、連結純利益への影響は、ほとんどありません。特別損益の改善と法人税等の増加がほぼ相殺しており、結果として、純利益もほぼ前年並みとなっています。

## Ⅱ .単体業績の概況

<売上高前年同期比較【MT単体】：2014年3月期 第2四半期累計>

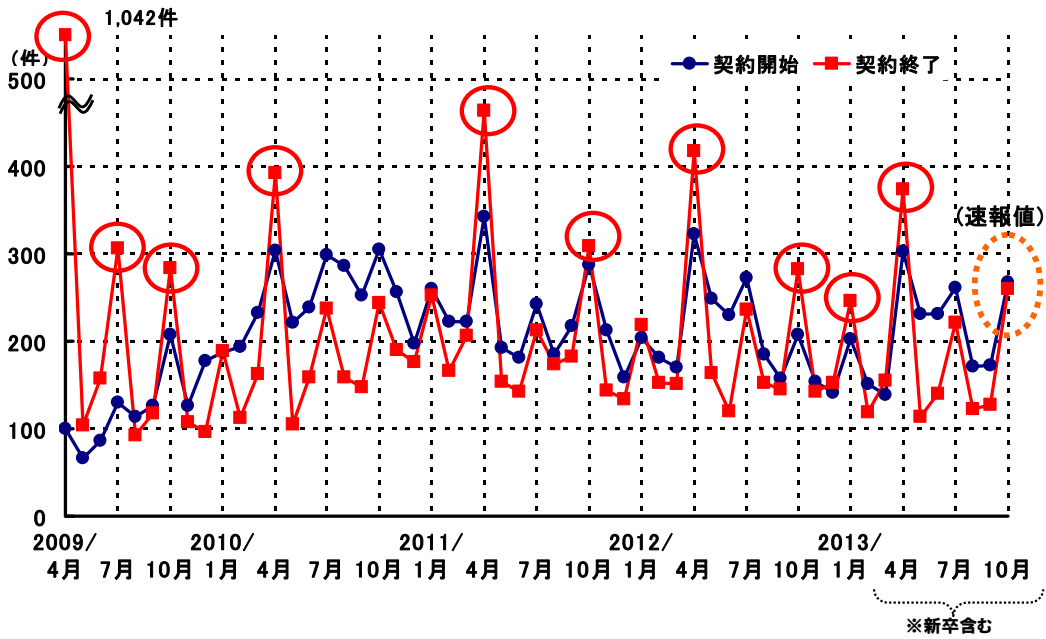


メイテック単体の業績の概況です。

メイテック単体の売上高は前期271億2,500万円、今期は281億5,000万円で、約10億円の増収です。売上増加の要因として、3つ記載しています。

当社の売上を構成する3つの要素であるエンジニアの稼働人員数、稼働時間、平均単価のすべてが前年同期比で増加しているためです。最も大きく寄与した要因は稼働人員の増加で、379名の新卒エンジニアの増員が大きく寄与しています。

## <契約実績推移【MT単体】：2009/4月～2013/10月>



12

月次のメイテック単体の契約実績推移です。

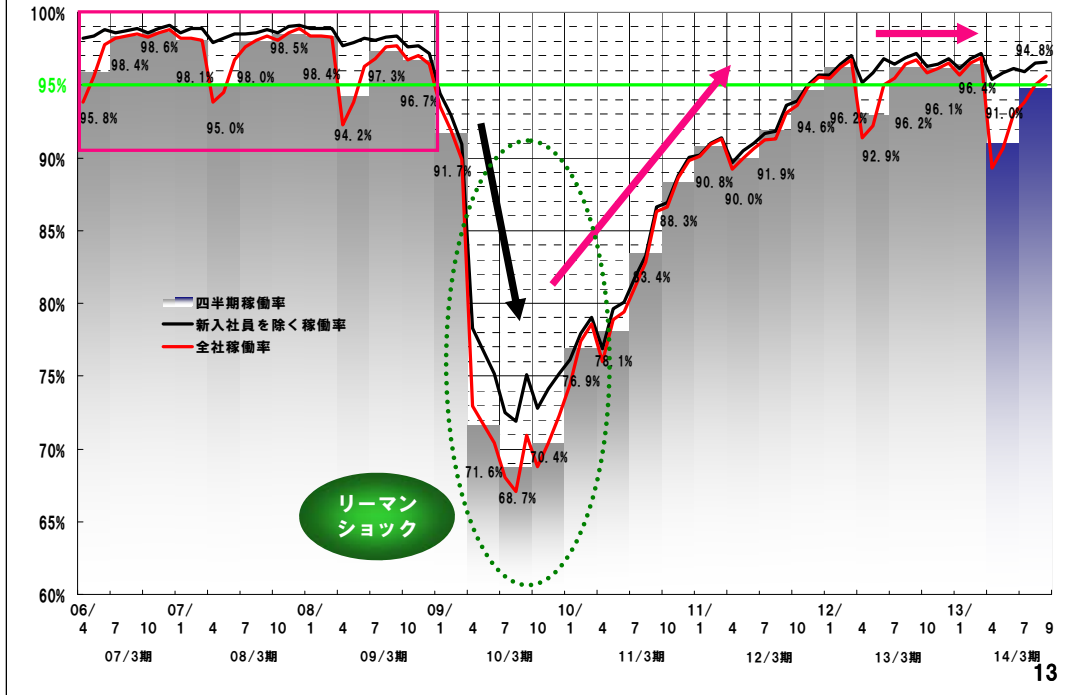
右端の4月～10月で当期の状況を表しています。

期初の4月は、契約開始(青)よりも終了(赤)の方が上回っています。これは年度替わりにより、お客様がプロジェクトの見直しや予算の見直しをされるタイミングであるため、例年、4月は契約終了が大きく増加します。一方で、新しいプロジェクトも始まるため、契約開始も同時に増加します。

当期は、5月以降はすべて契約終了(赤)よりも開始(青)が上回っています。ここでも、新卒エンジニアの配属が寄与しており、こうした成約実績によって稼働率を順調に上げることができました。

なお、10月の数値を速報値として記載しています。下期の立ち上がりは、契約開始(青)と終了(赤)がほぼイーブンという形でスタートができました。例年、10月もお客様が予算、プロジェクトの見直しをされる時期と重なるため、契約開始と終了が多くなる時期で、リーマンショック以降、例年終了(赤)が上回ってきましたが、当期については若干開始(青)が上回るような状況下でスタートができましたが、これは概ね期初の計画どおりです。

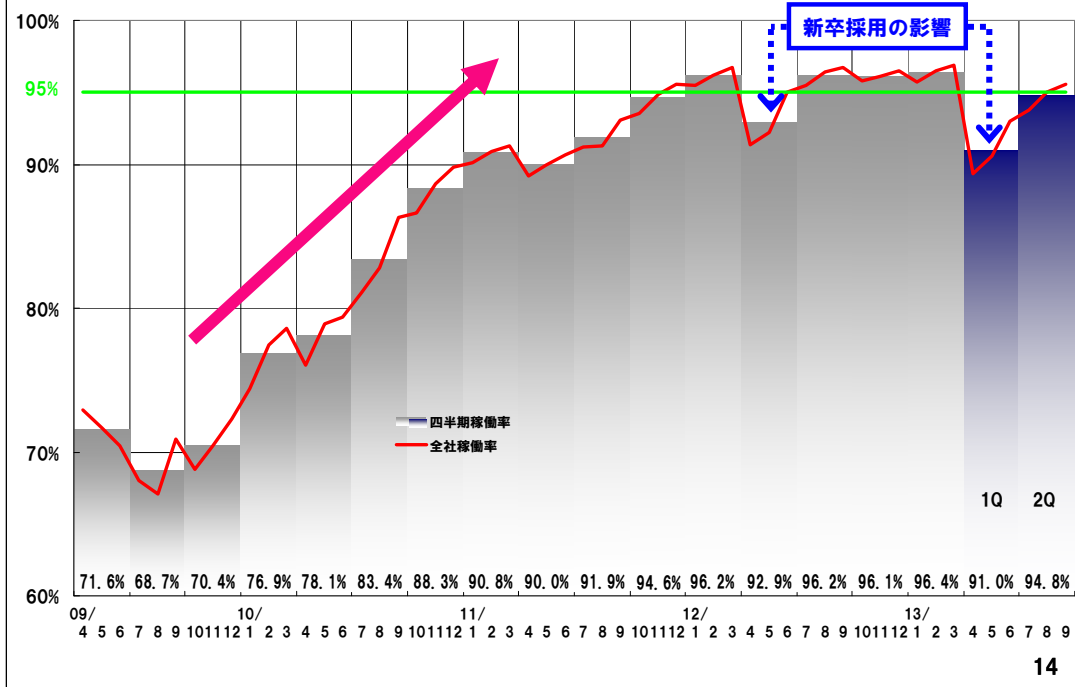
### <稼働率推移【MT単体】>



当社技術者派遣事業の最も重要な指標となるエンジニアの稼働率の推移です。

リーマンショック時の落ち込みから、V字で回復を果たし、前期から事業の好調時の水準の目安としている95%という稼働率を持続的に達成しています。

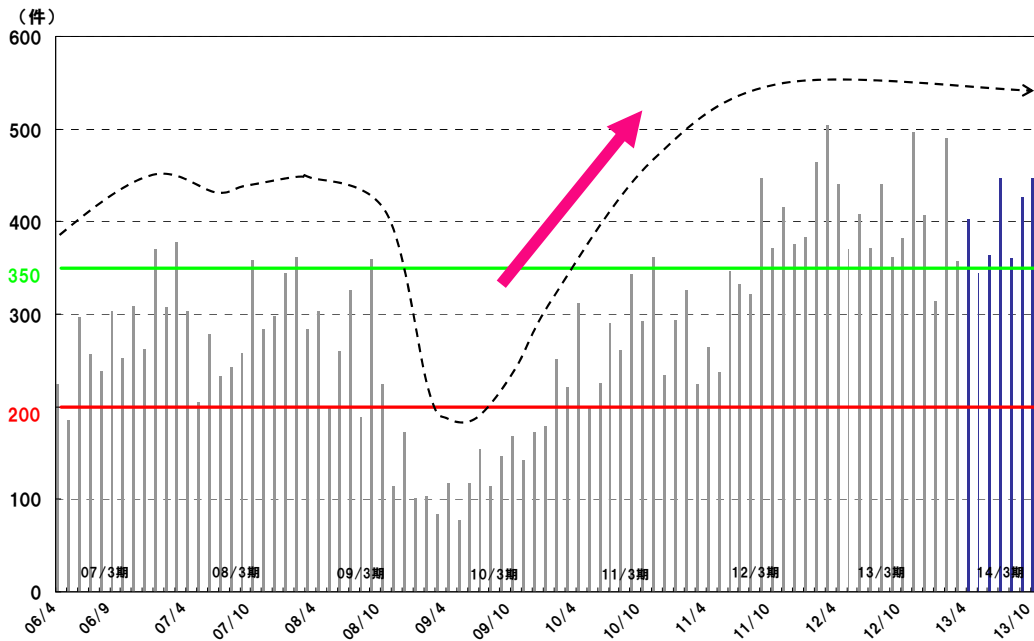
### <稼働率推移【MT単体】09/4~>



四半期ベースでの直近の稼働率の状況です。

前期、当期ともに、第1四半期は稼働率が一時的に落ち込んでいますが、グラフに記載のとおり、新卒採用の影響です。このように第1四半期では95%を下回るものの、上半期中に新卒の配属を進め、期末に向けて稼働率を上げていき、通期で95%を越えていくことが当社事業の好調パターンであり、去年からこの好調パターンを実現することができるようになってきました。

## <月間新規受注推移【MT単体】>



15

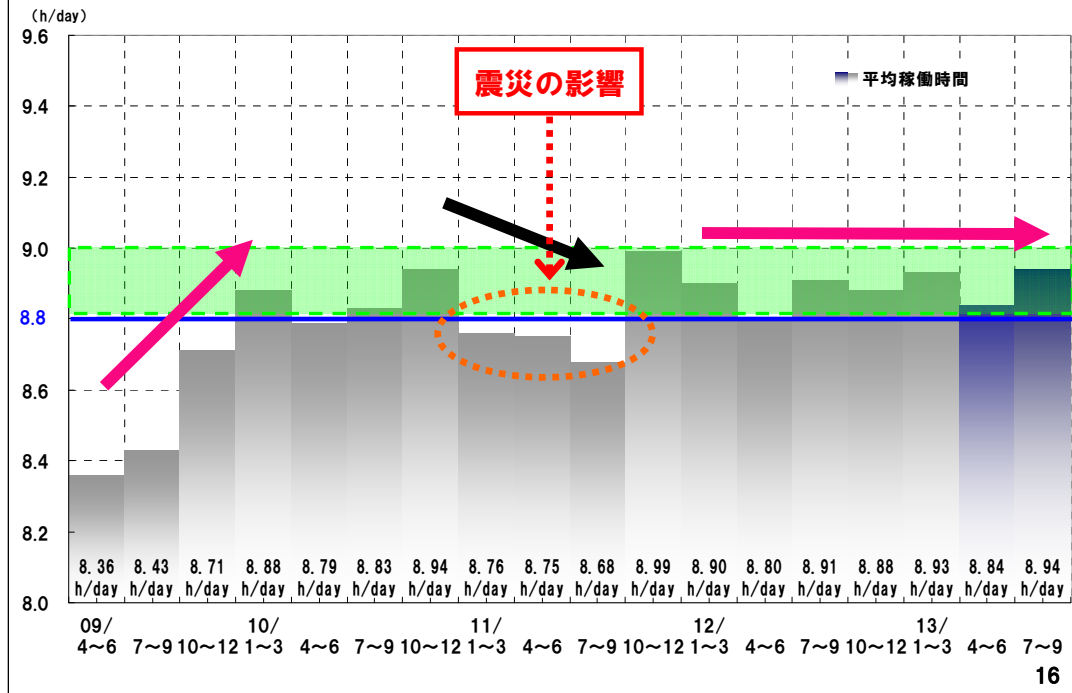
**当社事業の市況の先行指標となる月間新規受注数の推移です。**

月間350件(緑線)以上の新規の受注をいただければ、市況はほぼ堅調であるという見方をしています。一方で、月間新規受注数が200件を割るような状況が続くと、危険な状況であるという見方をしています。

今期は、この堅調の水準指標である350件をコンスタントにクリアする状況が続いています。前期と比べても、この傾向に特に大きな変化は見られず、市況は堅調であるという見方をしています。



## <稼働時間推移【MT単体】09/4～>

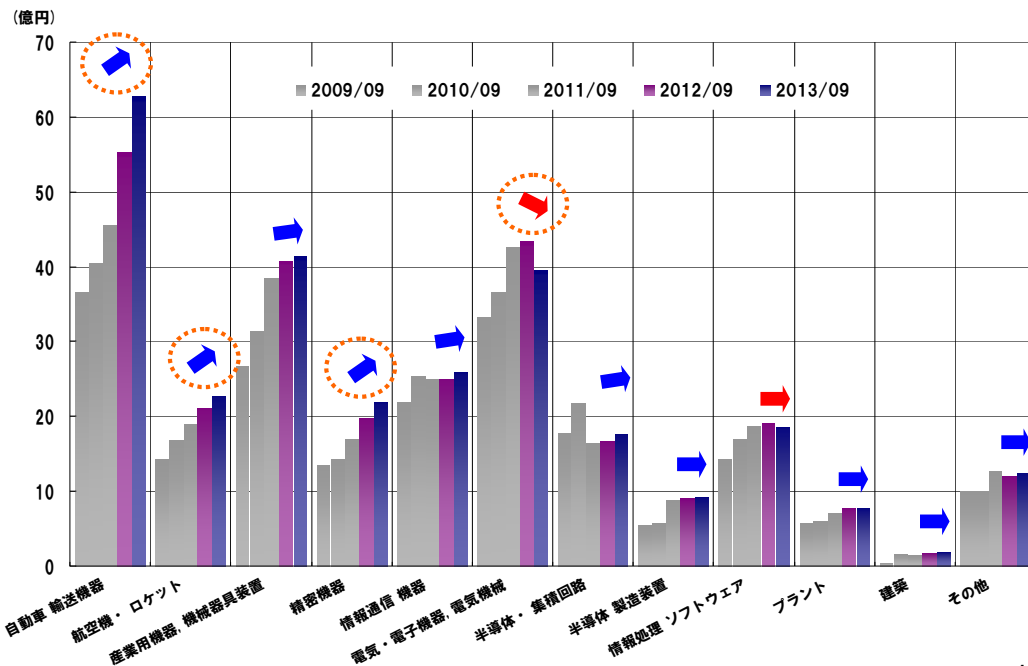


もう1つの売上構成要因である1日当たりのエンジニアの稼働時間推移です。

ここ数年は、1日当たり8.8時間から9.0時間の間で推移しています。これは残業が1日当たりゼロから1時間の間で推移しているということです。2013年4月～6月、7月～9月の稼働時間については、前年同期と比較して若干プラスとなりました。リーマンショック前は9時間を越える状況が常態化していましたが、現在は8.8時間から9.0時間のレンジで推移しており、大きな変化はありません。

当社エンジニアの残業時間は、お客様にとってはコストの一部となるため、コストを徹底的に抑制するという意識に変化は無いことが現れています。

＜セグメント別売上高推移【MT単体】：2014年3月期 第2四半期累計＞



17

セグメント別売上高の推移です。

前期からのトレンドがそのまま継続しています。

自動車輸送機器分野が大きく伸びており、その他は堅調に推移しています。

ただし、当期に入り、電気・電子機器、電気機械分野が若干落ち込んできています。これは、エレクトロニクス業界全般が非常に厳しい状況が続いている影響が、セグメント別の売上高構成にも現れています。

ただし、ほぼあらゆる製造業分野で技術者派遣事業を展開していることから、特定分野が多少落ち込んでも他分野でカバーできる、という当社の強みが当期も発揮されたと認識しています。

## III. 業績予想

## <下期の想定>

1. 製造業各社の技術開発投資が持続する。
2. 製造業各社のコストを抑制する動向は継続する。
3. 中途採用目標を達成する。(MT・MF)
4. 有事・平時に関わらず、中長期的に持続的な成長を実現するための、より強い事業基盤づくりを目的とした戦略投資計画(単体)を継続する。  
(※中期経営計画「共創21」)

下期の業績予想に織り込んでいる想定を4つ記載しています。

1番目と2番目は、市況に対する想定です。3番目は当社の採用努力です。そして4番目は、有事に備えた取り組みを継続することです。

## <業績予想：2014年3月期>

(単位：百万円)		売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
連結	通期	73,500	6,400	6,400	4,000
	前期実績	70,330	6,354	6,427	5,993
	対前期比 増減率	4.5%	0.7%	△ 0.4%	△ 33.3%
単体	通期	58,000	5,400	5,800	3,600
	前期実績	55,822	5,402	5,698	6,056
	対前期比 増減率	3.9%	△ 0.1%	1.8%	△ 40.6%

※技術者派遣事業における足元の稼働人員数の見込みなどを勘案し、業績予想の前提条件は変更しますが、大きな変動がない為、2013年5月9日に公表した通期業績予想は修正致しません。

20

**通期の業績予想です。**

**前頁の4つの想定を踏まえ、通期業績予想は期初予想から変更していません。理由は2つあります。**

- 1. 上半期は、営業利益が期初予想と比べ若干上ブレしていますが、その主要因は販管費の費消が下半期にずれているということです。**
- 2. そして、売上自体は、連結、単体ともにほぼ期初予想どおりであるということです。**

**こうした状況を踏まえ、通期業績予想は変更していません。**

＜業績予想の前提条件【MT・MF】：2014年3月期＞

			MT	MF
稼働率	通期	期初予想	95.0%	91.4%
		今回予想	94.5% (△)	94.0% (+)
	上半期	期初予想	93.5%	87.3%
		実績	92.8% (△)	91.9% (+)
	下半期	期初予想	96.6%	95.5%
		今回予想	96.0% (△)	96.0% (+)
稼働時間	通期	期初予想	8.88h/day	8.92h/day
		今回予想	8.90h/day (+)	8.96h/day (+)
	上半期	期初予想	8.86h/day	8.87h/day
		実績	8.89h/day (+)	8.97h/day (+)
	下半期	期初予想	8.90h/day	8.96h/day
		今回予想	8.90h/day (-)	8.96h/day (-)
中途採用		期初予想	250名	125名
		今回予想	250名 (-)	125名 (-)
退職率		期初予想	6.0%	11.0%
		今回予想	6.0% (-)	11.0% (-)

21

業績予想の前提条件の詳細です。

稼働率と稼働時間、そして、エンジニア数が当社の売上に大きく影響しますので、それらを記載しています。

稼働率については、メイテックの上半期は想定稼働率を若干下回りました。これは、新卒の配属がほぼ計画どおり完了できたものの、一般の配属がやや計画を下回ったことに起因します。下半期は計画どおりの配属を見込んでおりますが、上半期の稼働率が予想よりも下がったところからスタートすることを下半期の稼働率には織り込んでいます。

稼働時間については、メイテック、メイテックフィルダーズともに上半期は想定を若干上回りました。ただし、前述のように大きな変化ではありませんので、下半期は期初の想定どおり、前期並みという数値を見込んでいます。

中途採用数は、当期メイテック単体で250名、メイテックフィルダーズで125名の中途採用を計画していますが、メイテック、メイテックフィルダーズともに目標達成を見込んでいます。

退職率については、期初予想から変えていません。  
これらの前提の上で、通期業績予想を変更していません。

## <2014年新卒採用の状況（参考）>

		MT	MF	合計
<b>新卒採用</b> (2014年4月1日入社見込み)	期初予想	400名	150名	550名
	予定※	404名	179名	583名

※技術者の新卒内定者数(2013/10/1現在)

2014年4月1日新卒入社の内定状況です。

2013年10月1日現在の内定状況としては、メイテックは400名の採用計画に対し、ほぼ計画通りの404名となりました。

メイテックフィルダーズは今期、新卒配属が好調に実行できたため、期中の採用計画を上方修正し、150名の採用計画に対し、30名ほど増加の179名となりました。

その結果、合計550名の採用計画に対し583名となりました。

## <グループ各社予想：2014年3月期通期>

(単位：百万円)

		売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	
通期	派遣事業	メイテック	58,000	5,400	5,800	3,600
		メイテックフィルダース	10,000	750	750	450
		メイテックキャスト	2,400	100	100	60
		メイテックEX	10	△ 40	△ 40	△ 40
	E/S事業	メイテックCAE	1,100	120	120	70
		アポロ技研グループ	1,500	10	10	5
	グローバル事業	メイテック上海 他3社*	80	△ 80	△ 80	△ 80
	紹介事業	メイテックネクスト	900	290	290	190
		all engineer.jp	50	△ 20	△ 20	△ 20

\*グローバル事業は、メイテック上海・メイテック西安・メイテック成都・メイテック上海人才の4社合計です。

23

グループ各社ごとの業績予想です。



## IV. 株主還元について

## <配当予想：2014年3月期>

(基準日)	年間配当金				合計
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	
前期実績 (2013年3月期)		30円00銭		69円00銭	99円00銭
当期予想 (2014年3月期)		31円50銭		40円50銭	72円00銭

- 通期の業績予想を修正しませんので、配当の予想は修正しません。
- 配当予想は、中間配当金を連結株主資本配当率(DOE)5%相当額の31円50銭、期末配当金を下半期の純利益の配当性向50%相当額の40円50銭、年間配当金は72円(前期比27円の減配)の予想値としました。配当金総額は約22億円を見込んでいます
- 自己株式の取得は、総還元性向100%以内の原則に従い18億円を予定しています

※ 総還元性向100% = (配当金総額見込22億円 + 自己株式取得予定額18億円) ÷ 連結当期純利益予想40億円

25

今期の株主還元は、配当、自己株式の取得、共に期初計画どおりです。

配当は、中間で31円50銭、期末で40円50銭、通期で72円の配当を想定しています。参考資料11ページに記載の当社の利益配分に関する基本方針の内容どおり、自己株式の取得は18億円を予定しています。

## <今後の労働市場変革と、当社事業の展望について>

- ・ 産業の活性化と、雇用の安定化の両立へ
- ・ 「雇用維持型から労働移動支援型」へ
- ・ 多様な働き方の実現へ



- ・ 無期雇用型派遣の社会的認知の向上
- ・ 健全な市場競争
- ・ No.1の優位性

26

最後に今後の労働市場変革と当社事業の展望についてです。

今年6月、政府よりアベノミクスの成長戦略の一環として日本再興戦略が発表されています。

これには、雇用制度を改革することによって日本の労働市場を変革していくということが明記されており、内容を大きくまとめると青枠部分となります。

従来の日本の雇用政策のように、既存分野、既存企業の中に雇用を閉じ込め、それにより雇用を守るのではなく、企業も人も成長分野へシフトすることにより、産業を活性化し、新たな雇用を生み出すことで、社会全体として雇用の安定化を図っていくという考え方だと認識をしています。

同時に、正規、非正規、あるいは派遣という働き方についても、できるだけ流動的に人が動けるようにし、正規雇用ありきではなく、働く人にとっては多様な働き方が選択できるようにしていくこと、企業にとっては多様な労働力を柔軟に活用できるようにしていくこと、こういった方向性が示されていると理解をしています。

現在、来年の国会審議を目指して、派遣法の改正について、労働政策審議会で検討が進められています。検討内容についても、基本的にはアベノミクスの成長戦略の方向性に即しています。

具体的には、当社のような無期雇用型派遣については、多様な働き方の1つとして、通常の正規雇用と同じように法的に位置づけていこうという内容です。これが法制化された場合には、無期雇用型派遣については、派遣というバリエーションの一つではなく、正規雇用のバリエーションの一つというように、派遣法の構造も大きく変わり、社会的な認知度を大きく、ポジティブに上げていくチャンスだと考えています。認知度が高まれば、より多くのお客様が安心して派遣を活用いただけるようになり、採用面においても大きなプラス要素に繋がると考えています。

同時に、現状は無期雇用派遣と無期雇用派遣まがいの事業者が混在しているのも実態です。

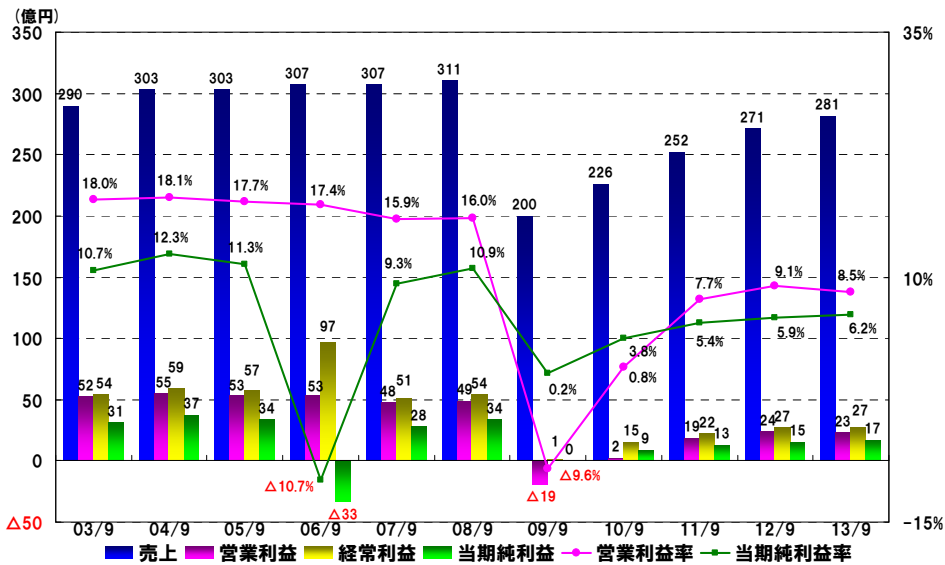
このような部分は、法改正によって明確に区分されるようになります。そうすることで、健全な市場競争が可能になり、無期雇用型技術者派遣業界の中で、業界ナンバー1と評価されている当社の優位性をますます高めることができると考えています。

決して、法改正をあてにしているわけではありませんが、仮に法改正がされた場合には、さらに事業を大きく発展させるチャンスになり得ると考えています。

来年から新3カ年中期経営計画へ取り組むにあたり、法改正がされた場合にはその要素を織り込み、より発展できる事業戦略、経営戦略としていきたいと考えています。

人と技術で次代を拓く  
**MEITEC**  
メイテックグループ

＜業績推移【MT単体】：2014年3月期 第2四半期累計＞



<本業【技術者派遣事業】の概況：2014年3月期 第2四半期累計>

			MT+MF+ CAE	MT+MF	MT	MF	CAE
第2 四半 期累 計	稼働率 (全体)	実績	-	92.7%	92.8%	91.9%	-
		前期実績	-	93.9%	94.5%	91.1%	-
	稼働時間	実績	-	-	8.89h/day	8.97h/day	-
		前期実績	-	-	8.86h/day	8.87h/day	-
	期末技術 社員数	実績	7,384人	7,294人	5,851人	1,443人	90人
		前期実績	6,976人	6,896人	5,586人	1,310人	80人

参考資料-2

<セグメント別売上高推移【MT単体】：2014年3月期 第2四半期累計>

(単位:百万円)

セグメント名	2010年 3月期 第2四半期	2011年 3月期 第2四半期	2012年 3月期 第2四半期	2013年 3月期 第2四半期	2014年3月期第2四半期			
	売上高				売上高	売上 構成比	対前年 増減額	対前年 増減率
自動車・輸送機器関連(航空機を除く)	3,650	4,046	4,562	5,529	6,283	22.3%	+754	+13.6%
航空機・ロケット関連	1,427	1,685	1,893	2,099	2,276	8.1%	+176	+8.4%
産業用機器、機械器具および装置関連	2,671	3,126	3,834	4,081	4,130	14.7%	+49	+1.2%
精密機器関連	1,342	1,430	1,697	1,977	2,194	7.8%	+216	+11.0%
情報通信機器関連	2,188	2,544	2,504	2,492	2,588	9.2%	+95	+3.9%
電気・電子機器、電気機械器具設計	3,322	3,661	4,268	4,335	3,946	14.0%	△ 388	△ 9.0%
半導体・集積回路関連	1,775	2,167	1,632	1,658	1,760	6.3%	+101	+6.1%
半導体製造装置関連	549	574	875	908	920	3.3%	+11	+1.3%
情報処理、ソフトウェア開発・運用	1,418	1,700	1,862	1,900	1,843	6.5%	△ 57	△ 3.0%
プラント関連	564	598	705	769	778	2.8%	+8	+1.2%
建築関連	45	157	141	172	182	0.6%	+9	+5.6%
その他	1,142	1,006	1,277	1,199	1,246	4.4%	+46	+3.9%
合計	20,093	22,694	25,250	27,125	28,150	100.0%	+1,025	+3.8%

参考資料-3

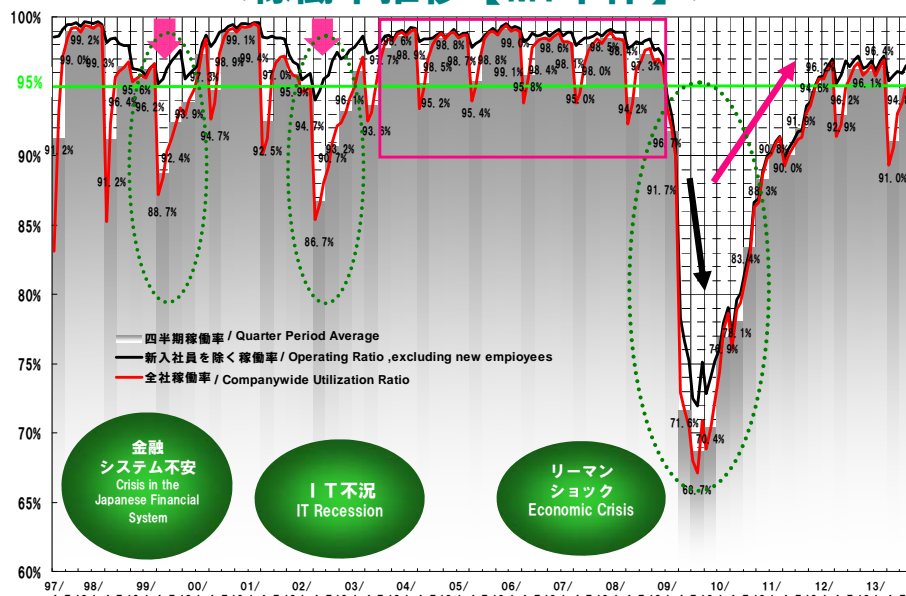
<トップ10顧客売上高・比率推移【MT単体】：2014年3月期 第2四半期累計>  
<5年前> <現在>

(単位:百万円)

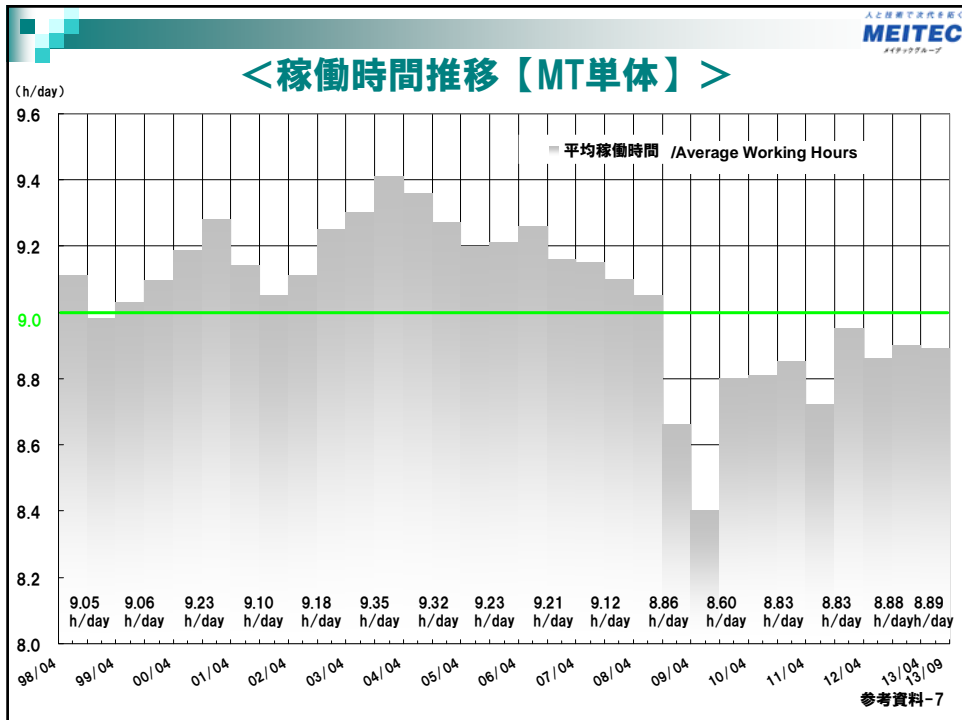
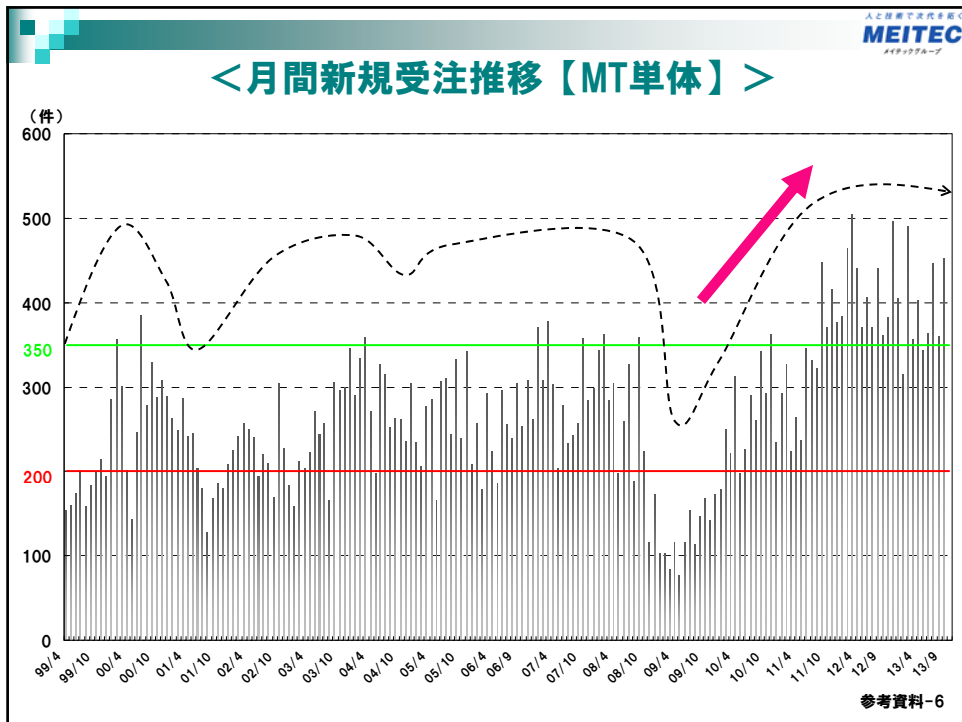
2009年3月期 第2四半期(36期)			2013年3月期 第2四半期(40期)			2014年3月期 第2四半期(41期)		
顧客企業名			顧客企業名			顧客企業名		
1	パナソニック 様		1	三菱重工業 様		1	三菱重工業 様	
2	キヤノン 様		2	パナソニック 様		2	デンソー 様	
3	ソニー 様		3	ニコン 様		3	ニコン 様	
4	オムロン 様		4	キヤノン 様		4	キヤノン 様	
5	デンソー 様		5	デンソー 様		5	パナソニック 様	
6	三菱重工業 様		6	ソニー 様		6	川崎重工業 様	
7	ニコン 様		7	川崎重工業 様		7	ソニー 様	
8	トヨタ自動車 様		8	トヨタ自動車 様		8	トヨタ自動車 様	
9	セイコーエプソン 様		9	ダイキン工業 様		9	東芝 様	
10	矢崎部品 様		10	オムロン 様		10	オムロン 様	
トップ10社合計	10,310	33.1%	トップ10社合計	7,737	28.5%	トップ10社合計	7,697	27.3%
トップ20社合計	13,637	43.8%	トップ20社合計	10,680	39.4%	トップ20社合計	10,862	38.6%
その他	17,526	56.2%	その他	16,445	60.6%	その他	17,287	61.4%
合計	31,163	100.0%	合計	27,125	100.0%	合計	28,150	100.0%

参考資料-4

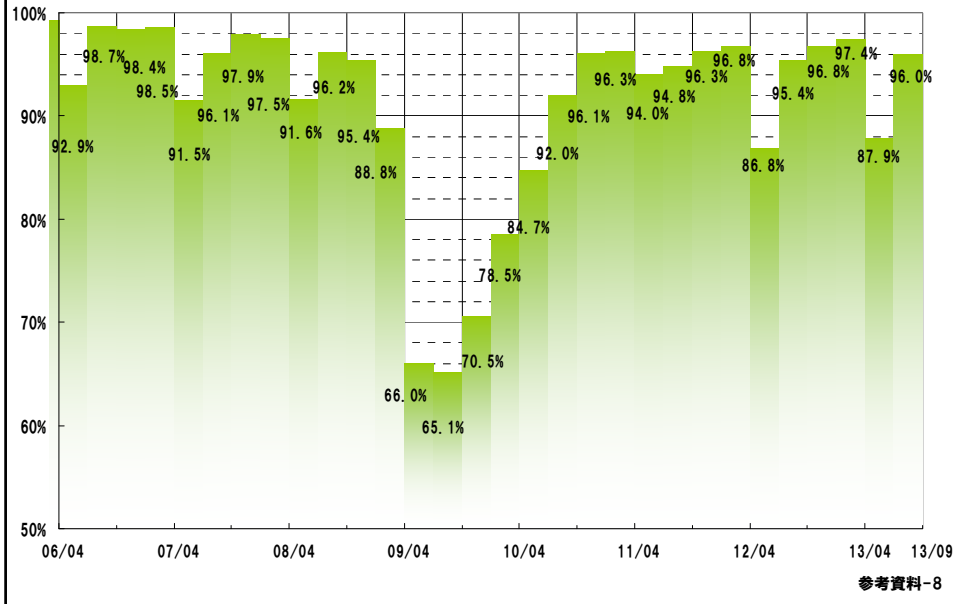
<稼働率推移【MT単体】>



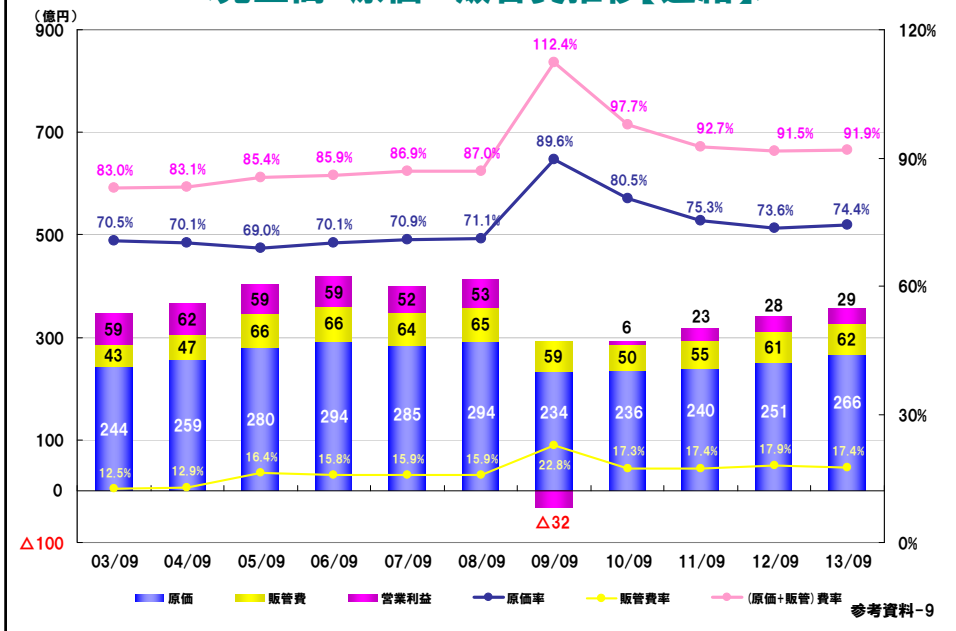
参考資料-5



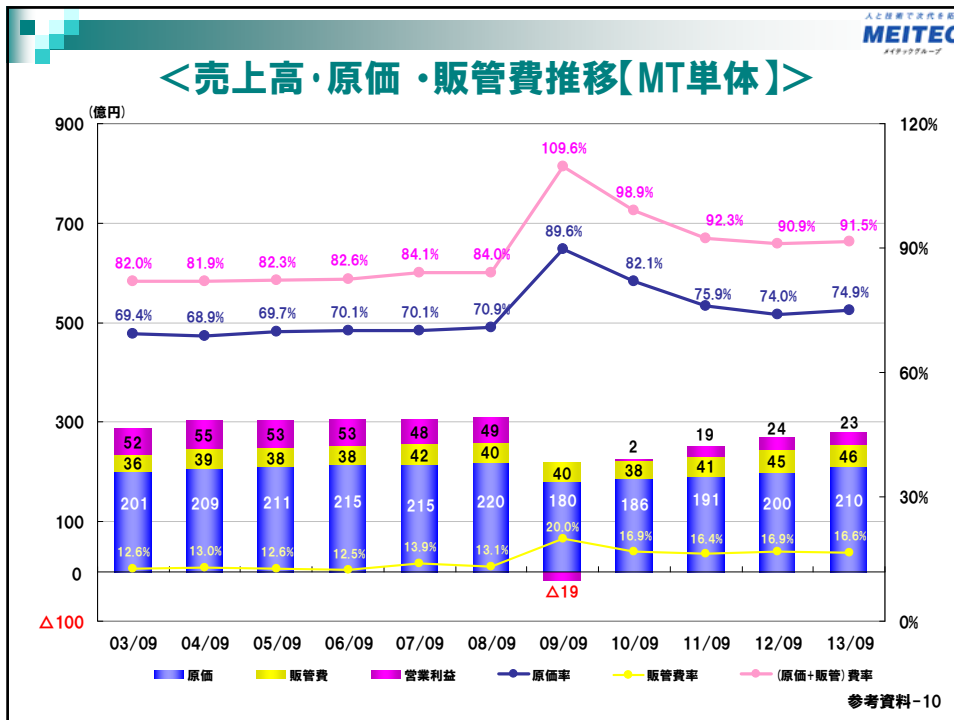
### <稼働率推移【MF】>



### <売上高・原価・販管費推移【連結】>







人と笑顔で次代を拓く  
**MEITEC**  
メイテックホールディングス

### ＜2011年5月改訂：利益配分に関する基本方針＞

	従前	見直し後	
株主還元		総還元性向 100%以内を原則	変更あり
配当	業績連動型配当 最低限の配当	連結当期純利益の50%以上 連結株主資本配当率 (DOE) 5%	変更なし
自己株式取得	自己株式の取得 ワーキングキャピタル (月商2ヶ月) を上回る 資金は自己株式の取得に充当	自己株式の取得 月商3ヶ月分を上回る資金を自己株式の 取得原資とする	変更あり
	継続保有 上限2百万株	消却 上限超を消却	変更なし

- 中長期的に株主還元の最大化を目指す観点から、配当及び自己株式取得による株主還元額は総還元性向100%以内を原則といたします。
- 月商3ヶ月分＝「必要運転資金 (ワーキングキャピタル) : 連結売上高の月商2ヶ月」＋「財務基盤強化資金 (2010年3月期に相当する危機的な市場環境になった際の事業継続資金) : 連結売上高の月商1ヶ月」

参考資料-11

### <株主セグメント別保有状況>

株主セグメント	2013年9月30日現在			
	株主数(名)	構成比	所有株式数(株)	構成比
銀行	3	0.04%	875,501	2.65%
信託銀行	19	0.28%	6,602,700	20.01%
生保・損保会社	18	0.27%	3,814,283	11.56%
証券金融・その他金融会社	3	0.04%	27,060	0.08%
証券会社	32	0.47%	221,139	0.67%
事業会社・その他法人	102	1.51%	500,512	1.52%
外国法人・外国人	170	2.51%	15,273,415	46.28%
個人その他	6,422	94.87%	5,685,390	17.23%
合計	6,769	100.0%	33,000,000	100.0%